

# ポストコロナグリーンリカバリーと気候変動 災い転じて福となせるか

世界感染症禍・世界経済危機・気候変動・その他の天変地異・国際紛争

**外岡 豊 Yutaka TONOOKA** 埼玉大学名誉教授

元大学院人文社会科学部研究科,元経済学部社会環境設計学科教授  
早稲田大学環境総合研究センター招聘研究員  
エコステージ協会理事

元**Imperial College Centre for Environmental Policy Visiting Professor**  
大連理工大学,西安交通大学,客座教授

日本建築学会地球環境委員会委員・建築物Paris協定達成小委員会主査  
同倫理委員会委員,SDGs対応特別研究委員会幹事  
低炭素社会推進会議幹事（現在22団体で構成）

環境省温室効果ガス排出量算定方法検討会エネルギー・工業プロセス分科会  
神道稲門会会員

# 1 風土に沿った日常生活



大和（やまと）にはむら(群)山あれどとりよろふ天の香具山（かぐやま）  
登り立ち 国見をすれば国原は煙（けぶり）たちたつ  
海原（うなはら）はかまめ（鷗）たちたつ  
うまし国ぞ 秋津洲（あきつしま）大和の国は

天皇が香具山から見える平地のあちこちに炊事の煙が立ち登る景色を見て、  
民が平穩に暮らしていることを『うまし国ぞ』と歌ったもの 庶民の**日常生活が基本**

## 2 鳥獣戯画 賛



## 日本人の自然観、世界観→感染症と向き合う

### 鳥獣戯画 動物の葬式の絵

蛙が仏像になり猿が数珠を持って拝む

兎も参列 狐もいる 梟も

動物も葬式をして一緒に死を悲しむ発想が日本人らしい

自然と一体 皆平等 古事記から受けつがれた世界観

[http://akituya.gooside.com/choujyu\\_allall.htm](http://akituya.gooside.com/choujyu_allall.htm)

かえるとうさぎの相撲  
最も有名な部分



# 3 古神道の世界観

加茂真淵

国意考

わが国の道は「さる名もなく、天地の意のままに」行われる 限定し難い現実が自然である わが国の道は自然に即している

従ってそれは簡単に割り切れないとともに、また空理ではなくして実現されるもの、「生きてはたらく物」である。

**存在を命あるものとしてとらえる**

**「おのずからなるもの」は皆円（まる）い**

日本の道は円、儒教の理は角形

礼儀礼智などと人工的に限定したために、かえって自然の性情を殺した

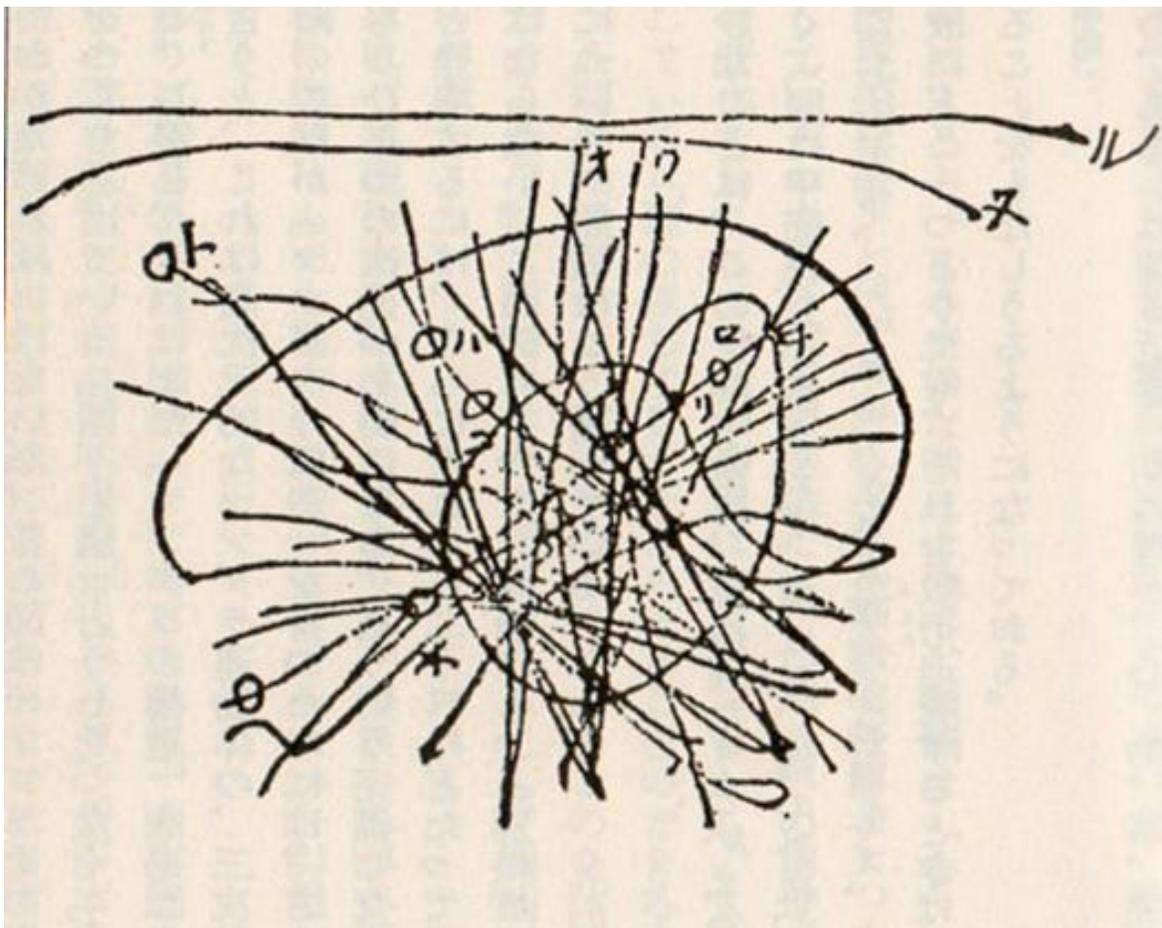
和辻哲郎:日本倫理思想史（四）,岩波文庫,62p

**ついでに日本では神話の時代から合議制だった**

**古事記 神が河原に集まって相談した と ある**

**ついでに日本では争いを避ける伝統があった 国譲り神話 卑弥呼伝説**

# 4 南方熊楠：混沌が秩序を織りなす自然界の姿 をそのまま受け入れる：正当な自然理解



**南方熊楠の森林曼荼羅**  
粘菌を含む複雑な森林の  
生態系を抽象図に表現

2017年は生誕150周年  
Biocity No.70  
南方熊楠と熊野の自然



「南方マンダラ」 1903（明治36）年7月の土宜法龍あて書簡  
<http://kimugoq.blog.so-net.ne.jp/2014-05-14>

# 5 農本主義思想の背景は鎌倉時代

法然と親鸞の貢献 現代日本人の宗教性の基礎形成

安藤昌益の思想も、法然、親鸞の影響を受けているとの説

法然 1133-1212 平安末期 から 鎌倉時代浄土宗 開祖

親鸞 1173 --- 1263 法然に弟子入り

法然は念仏を京都で布教

共に京都から追放され 東国で農業をしながら念仏 深い悟りの境地に

**農業労働経験・現場＝大地・自然との対話**

から得た力強い思想が、

鎌倉時代以降の武士と

庶民の信仰心の基礎をつくった

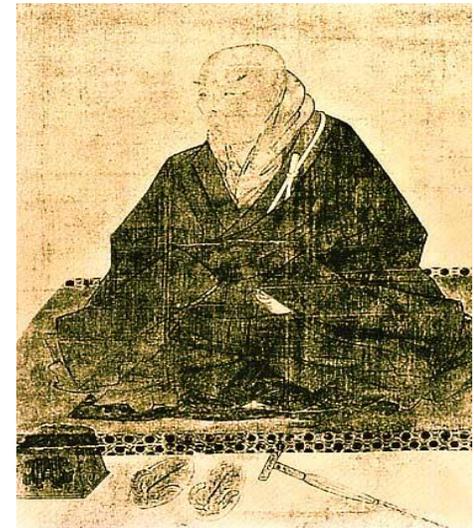
→安藤昌益思想に反映

親鸞 没後

弟子が浄土真宗を設立



親鸞



法然

## 6. 親鸞：念仏は「ひとえに親鸞一人がためなりけり」

親鸞は毎日念仏を称え乍ら農作業していた

念仏を通じて、自己存在を煩惱もそのまま是認する境地に達した

親鸞の真の念仏の境地は、仏道をとことん追求したことと農民と共に生活して土と自然に向き合い農作業を毎日体験した、この同時並行体験から得られた

親鸞は、実に人間一般の生活そのものの上に、如来の御恩をどれほど感じ能う（あたう）ものかを実際の大地の生活において試験したのである

この一人は大地に寄りて象徴せられるが一番手近なのである

大地の具体性がすなわち一人の具体性

－他のものではどうしても置き換えられぬ性格－である

# 7 安藤昌益：農本主義-先進持続可能社会論

安藤昌益1703-1762 秋田藩（大館市）出身

医学と天文学を基礎に農業生産を中心に社会と経済を考察

マルクスより百年先行、階級社会批判、利益追求商業批判

農本主義は先進的持続可能社会・理想社会構想

門人多数：安藤昌益の超先進思想に共鳴した江戸時代庶民の知的理解力

## 8 昌益 理想社会像の概要 1

- \* 健全な自然と、よく耕された農地が人民の生活の基盤であり、健全な人から成る健全な社会（これを正世、まさよ、と呼んだ）をつくる（農本主義）
- \* 誰もが農業労働をするべき（これを直耕の世と言った）  
工職（各種専門職人）も医者も、学者、僧侶、神官、商人も兼農、領主も農耕労働する
- \* 健全な社会を健全な個人の集合として構築する  
法律より自律、一人の聖人（悟りの高い境地の人）がいるより、多数の正人（健全な人民）がいる社会、それが正世、が望ましい
- \* 社会秩序を守るためには領主諸侯のような支配者が必要だが、その数も権限も最低限にし、彼らも農耕させ、社会的に解任できるようにする

## 9 理想社会像の概要 2

- \* 武士団、武家制度を解体し、土地供与により農民化する
- \* 土地・資源の私物化をなくし、全員労働の社会なので生産者と横領者の関係もなく貧富の差もない 男女差を始めすべての社会的差別をなくし平等な社会とする
- \* 海里（うみさと）は海産物を平里（ひらさと）は米を山里（やまさと）は陸穀を深山は木材を他地域に供給し、互いに無い物を補い合うための交易を行って平常の生活を成り立たせる 儲けるための必要以上の交易をしない

SDGs2030,Paris協定2050の先の到達点

# Towards **Sun**stainable Society

Through 3 Millennium  
三千年紀の社会

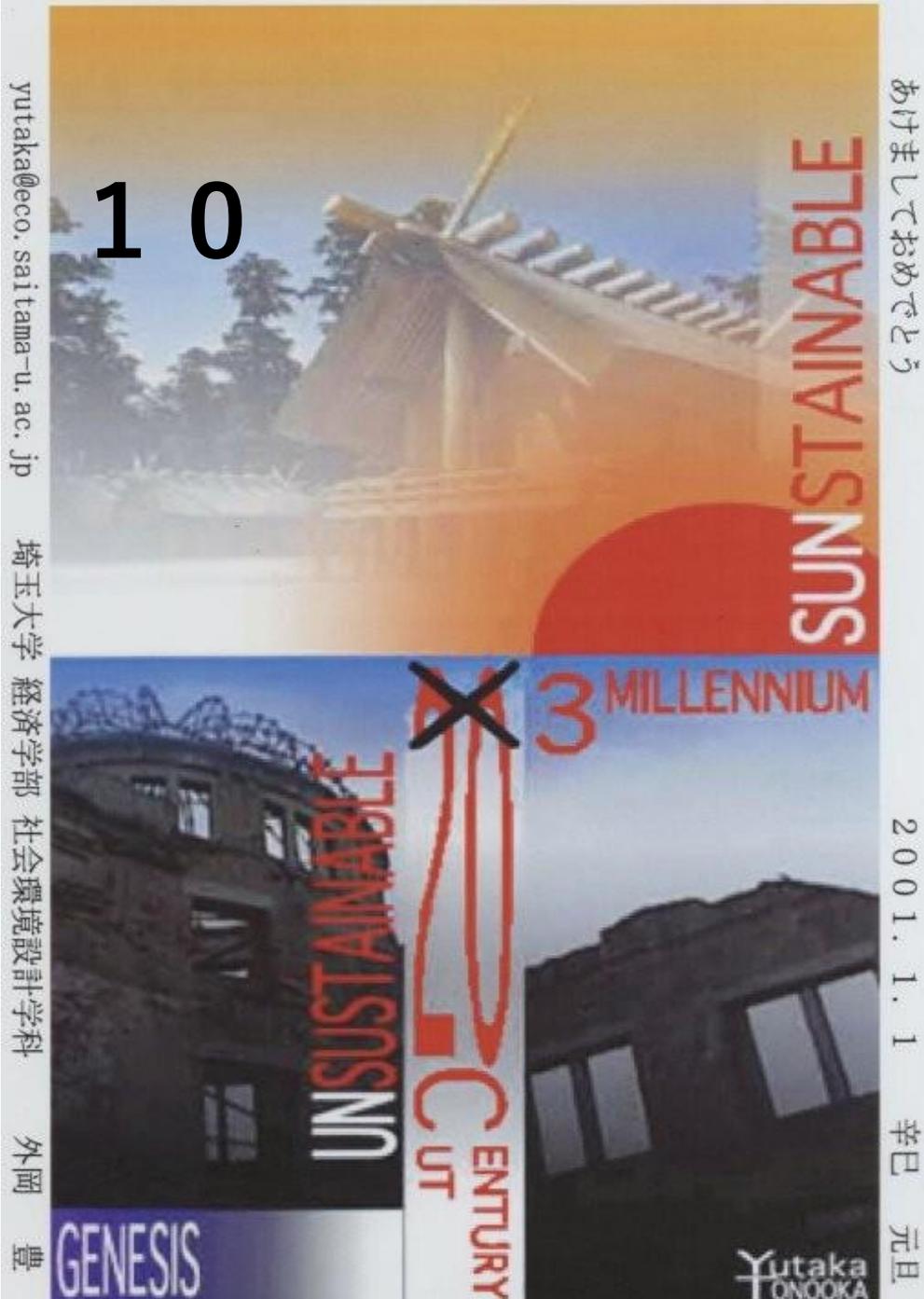
太陽エネルギー依存・持続可能へ

上は伊勢神宮、大和朝廷の真東、  
下半分=広島原爆ドーム

20世紀は異常期

人類史例外期間になるようにしたい

Sunstainableは外岡造語,2000年頃公表  
左は21世紀初日,2001年賀状



10

# 1 1 持続可能社会像

健全な人

健康、精神安定  
電子機器影響回避  
感動感性維持  
教育、教養

健全な生活

生活慣習  
衛生環境

健全な社会

人権擁護  
コミュニティー  
いじめなし  
脱差別貧困  
犯罪撲滅

住みやすい家

快適、健康  
日照、通風、結露なし  
利便、意匠  
安全(耐震、耐火)  
防白蟻、防かび

住みやすい街

良好な社会資産建築  
不動産制度抜本改革  
都市基盤施設整備  
保全された都市環境  
景観、アメニティー

適正情報利用

双方向通信活用  
共通情報共有  
情報安全

適正経済活動

国際為替安定化  
CSV追求  
脱過剰ビジネス

適正技術利用

ローテク活用  
美しい技術開発  
過剰技術革新抑制

適正エネルギー利用

省エネ、再生エネ  
脱化石燃料  
脱原発

適正資源利用

自然資源依存  
最低限の鉱物資源依存

健全農業

農地保全  
食の安全(脱農薬)  
脱遺伝子組換

安全な国土利用

危険居住域撤退  
臨海工業地帯津波対策  
被災防止策徹底(避難等)

適正林業

国産木材需要  
適正木材価格  
植林、間伐

健全な森林

法正林化、  
混交林化

健全な国土(日本)

生態系保全  
自然回復、里山里海  
水資源確保

健全な地球

気候変動防止  
オゾン層破壊防止  
熱帯雨林破壊防止等  
生物多様性維持

	1	2	3	4	5	6
1	気候変動	オゾン層破壊	熱帯雨林消失	砂漠化	生物多様性危機	生態系破壊
2	大気汚染	水質汚染	土壌汚染	酸性化	放射線汚染	マイクロプラ海汚染
3	化石燃料枯渇	金属資源枯渇	レアメタル不足	骨材不足	廃棄物	漁業資源枯渇
4	津波	地震	火山爆発	隕石落下	異常気象	伝染病流行
5	集中豪雨	台風大型化	竜巻、突風	ヒートアイランド	地すべり山崩れ	干ばつ
6	遺伝子組換え	農薬汚染	POPs化学物質汚染	水銀汚染	シェールガス採掘	環境リュックサック
7	原子力発電事故	広域放射線汚染	核廃棄物貯蔵	劣化ウラン弾	核兵器	
8	世界経済危機	国際為替不安定	1%富裕層問題	東西対決再燃	イスラム世界混乱	民族紛争
9	貧困	人種差別	人権	難民	虐殺	民主化と混乱
10	米軍基地問題	集団的自衛権	憲法改正	中国台頭軍備増強	日韓関係悪化	TPP交渉難航
11	伝統社会崩壊	伝統技術消滅	コミュニティー崩壊	地域固有文化消滅	職人不足	
12	情報化過剰	個人情報保護	サイバーテロ	都市基盤施設老朽化		
13	自殺	精神病増加	社会不適合	ひきこもり	いじめ、おちこぼれ	
14	電子機器健康影響	暖冷房健康影響	感受性低下無感動化	基礎体温低下		
15	少子高齢化	人口減少	山村過疎化	耕作放棄地	林業疲弊	
16	縦割省庁機能不全	地方財政崩壊	買物難民	空き家問題	マンション建替問題	
17	外国人労働者	ロボット化	介護人材不足			
18	持続可能社会化	気候変動対策	省エネルギー	再生可能エネルギー	スマート化	海洋牧場開発
19	省資源	素材転換	再利用	消費削減	価値観変化	海底資源開発
20	グリーン経済化	CSR	CSV	フェアトレード	スローライフ	
21	地域通貨	ボランティア活動	ふるさと納税	NGO	途上国学校建設	
22	大学の役割変化				国際対応力向上	

# 12 持続可能社会 関連要素